

75歳以上の窓口2割負担化

「知らなかつた」65%

について、65%の人が「知らなかつた」と回答していることが分かりました。保団連が28日、公表しました。

保団連がとりくむク

イズハガキに昨年9月

～1月に応募した約8

万通のうち、ネットで

の応募者にアンケート

を行い、1,302人の

回答を集計。回答者は

30～40代が5割を占

め、7割が女性でした。

6割超が「新たな負

担増が行われたらこれ

まで通り受診できな

い」と答へ、各世代で

受診回数や薬、検査を

減らすなど受診を抑制

するとしています。

「病気になつても受診

しない」もつとあります

した。

45%が「過去12カ月

に具合が悪いのに受診

を控えた経験がある

と回答。理由とし

保団連調査

全国保険医団体連合

会（保団連）が患者や

家族に行った調査で、

財務省が75歳以上の窓

口負担を原則1割から

2割にするなど、患者

の負担増を提案し、進

めようとしていること

兵庫県保険医協会調査 子ども医療費無料化

「安易な受診」は避けない

子どもの医療費を無料化します。若い世代で受診

ます。若い世代で受診

ます。経済的理由で受診を

払うのが困難だった」を控えた経験のある人の割合が高くなっています。（複数回答）としているの割合が高くなっています。（複数回答）としている控えたり、治療を中断

したりのまま入院。回復の見込みがない」「抗がん剤を止めた」など、重症化した多数の事例が寄せられました。

住江憲勇会長は「現

ました。

子ども医療費無料化の拡充を求めました。

した経験を自由記述で

聞いたところ、「父親

(70)が我慢しきて脳梗塞になり、寝つきのまま入院。回復の見込みがない」「抗がん剤を止めた」など、重症化した多数の事例が寄せられました。

が寄せられました。

住江憲勇会長は「現

ました。

した経験を自由記述で

行の1～3割の窓口負

担でも必要な受診が妨

げられている現状があ

ります。負担増が受診

抑制をいつそう深刻化させることは明らか

だ」として、負担増の中止を求めています。

（制度の反対論者が言うよ

うな）『安易な受診』を助

成制度が広がったが、休

日・夜間急診療所の小児

受診者は増加していない。

子ども医療費助成制度は、

年間経年で調査した結果、

子ども医療費無料化の自治

体が広がって、受診者数は

増えています。

医療費無料化の拡充を求める

ました。

日本共産党は全国各地で

住民運動と結び、自治体に

より子ども医療費無料化を

広げるために奮闘してきま

した。統一地方選挙では自

治体による制度の拡充を求

め、国の制度として確立す

ます。